



東京清掃労働組合  
千代田区飯田橋3-9-3  
TEL (3237) 9995  
1部20円  
編集責任 総務局長 田口康

わが組合の綱領

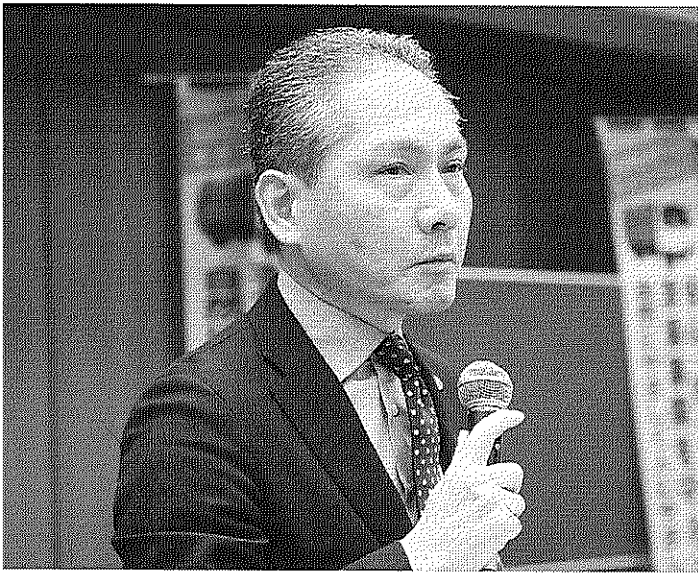
- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働者の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

# 人財確保で良質な公共サービスとしての清掃事業を

## 中央執行委員長就任にあたって

3月18日に開催された第88回定期大会で中央執行委員長を拝命しました。長く本部役員に携わらせていただいているが、新たな役割に新たな身が引き締まる思いです。

組合員の皆さんには、公



中央執行委員長 染 裕之

する心、団結力が、東京清掃労働運動の支えとなっています。

### 現業統一闘争について

新年度が始まり、新たな仲間を迎えた職場がある一方で、なかなか新規採用が獲得できない職場もありま

### 責任ある廃棄物行政の確立に向けて

廃棄物行政は、環境保全としての廃棄物処理から廃棄物の排出抑制、再生利用、循環型社会形成へと変化する中、住民はごみを出し、行政は出されたごみを収集し処分するという一方通行の事業から、ごみの減量、3Rの推進を住民とともに進めていくという双方の事業に変わってきました。

昨年までの自治労の現業統一闘争は、秋の段階で要求書を提出することとしていましたが、数年にわたる議論を経て、自治体の予算編成・人員補充のスケジュールを念頭に、現業統一闘争を本年闘争と位置付け、春闘期から要求書を提出して交渉を強化することが確認されています。全国の仲間が同じ日程で闘うことの



## 東京清掃青年部が第40回青年部活動家労働講座を開催!!

清掃職場を担っていく人材となるため学習し、交流をもつて「横のつながり」を作っていこう!!

はじめに、杉並工場の中村工場長から2代目杉並工場の建設に至った経緯や国内トップクラスの焼却施設であるとプラットホーム・ごみピットの挨拶を踏まえ、青年部活動に関しても激励を頂きました。

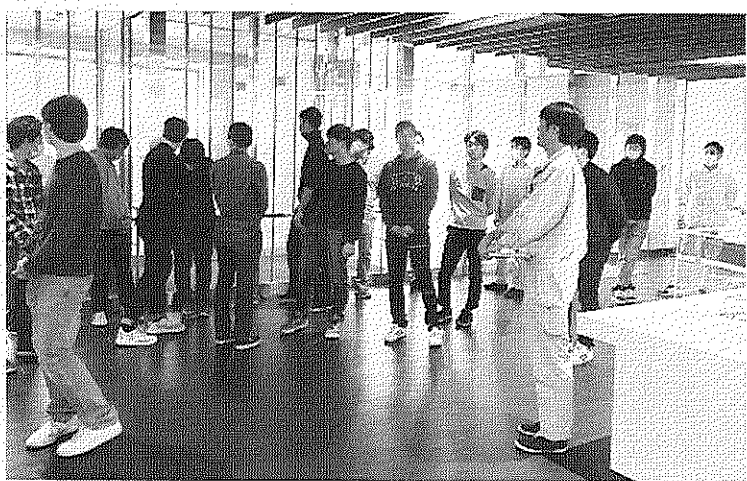
次に私から、東日本大震災の支援などの経験を話した災害・防災対策の必要性を提起し、中里書記長(当時は副委員長)からは、現業職の位置付けや労働組合の必要性、社会情勢などについて話されました。

その後、初代杉並清掃工場建設をめぐる「東京ごみ戦争」のDVDを視聴し、経緯から

住民と東京都の和解までを学習しました。そして施設見学では最新鋭の焼却炉を始め、プラットホーム・ごみピット・中央制御室等、説明を受けながら見学してきました。見学時には一般参加者からも質問が上がり、有意義なフィールドワークとなりました。

午後には4班に分かれての分散会を行いました。事前に作成した、アンケートを元に、参加者の職場実態・青年部組織・賃金実態について報告しました。職場実態では、様々な意見があり、各区の職場実態を知り、課題を共有化することの大切さ、仲間の悲しさを聞き、どうしたら変えられるのかを話し合いました。賃金実態では青年層の過酷な生活実態についての不満や不安を共有してきました。最後に、各班から分散会報告を行い、小坂書記長の集約の後、高野教文部長の団結がらばらうで終了して頂きました。

今回は初の試みとして工場へのフィールドワークをしました。普段知る事の出来ない工場の話を青年部の仲間と共有できたことは、東京清掃青年部全体にとっても良い学習会であったのではないかと思います。今後は活動家労働講座とあわせて、職場実態については別に工場へのフィールドワーク学習会を企画していきたいと思っております。また、工場の若手職員の参加を得たいと考えています。私たち本部青年部だけでは限界がありますので、基本組織から呼びかけを宜しくお願いします。(高木青年部長)



**いま** No.25  
**清掃事業は...**  
**墨田区**

**23区初の陶磁器リサイクルを開始**  
**不燃収集の再直営化を勝ち取る**



▲選別は職員がすべて手作業で行う



▲陶磁器は岐阜県に運びリサイクルされる

墨田区では平成15年度に旧2事務所を統合し、すみだ清掃事務所としてスタートをきった。翌年の作業計画一本化に合わせ組合も統合、墨田支部を結成し、今年、第15回目の定期大会をむかえるところである。当時200名だった組合員数は、現在99名と半減している。それだけ多くの事業が民間労働者の手に委ねられていることがわかる。移管以降の新規採用は、東京スカイツリーが開業した翌年平成25年度の3名のみである。

30年度、可燃の収集作業は2組のみが直営であり、その他19組はすべて車付雇上だ。直営職務の多くは「啓発指導業務」と「機動業務」となっている。具体的には、排出指導や環境学習はもちろん、資源抜き取り防止パトロール、スカイツリーをはじめとした観光拠点の美観維持、高齢者等への訪問収集や粗大ごみの引き出し作業、車付雇上エリアの業務管理などである。

また、昨年度から不燃ごみの資源燃ごみから得られる有用物を選別する施設も場所もないことから、収集と陶磁器のピックアップ・選別、搬出作業を直営で行ってきた。

作業計画・人員計画は単年度交渉であるが、同時に中長期的な視点で協議を行っている。将来的に直営で実施すべき事業と体制をしっかりと確立し、必要な人員は新規採用で補充していく。それがなければ区民に良質なサービスは提供できないことは労使共通の認識だ。その観点で所内へ検討の場を設置し、すべての係から一般職員も含めて議論を行ってきたし、労働条件に関する事項は労使協議のテーブルで検討を重ねていく。

今年度の作業計画は、あらかじめ支部要求を提出し、当局がそれを検討する形で協議を進め、最大の要求であった「不燃収集の直営化」を勝ち取ることができた。墨田区には不燃ごみから得られる有用物を選別する施設も場所もないことから、収集と同時に選別する必要がある。収集・選別から搬出まで一貫して直営で行えば質の向上に繋がるし、あらためて全集積所に職員が携わることで問題の把握や改善をスムーズに行うことができる。将来的にも核となる事業だと考えている。

組合員の平均年齢は51歳を超え、技能継承のための新規採用は待ったなしの状況だ。ようやく見えてきた将来的な直営の形を確固たるものとし、区民から信頼され、組合員が退職まで安心して働ける職場を、まだ見ぬ新規採用の仲間と共に作っていくことを目標に、組合員一丸で取り組んでいる。

(墨田区担当中央執行委員 長妻芳典)

**2018年度**  
**新入組合員歓迎学習会を開催!**

**労働組合の歴史や権利、必要性について学ぶ**  
**これから共にたたかこう!!**

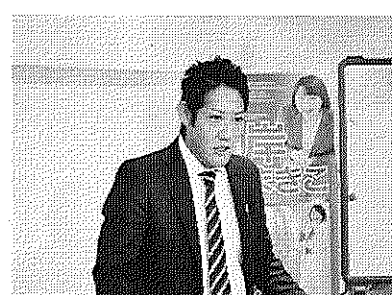
4月21日(土)SKホールにて「2018年度新入組合員歓迎学習交流会」を開催しました。

各区の採用に向けた奮闘も虚しく、昨年度より新規採用者数は減りましたが、それでも5区一組から14名が本部に結集し、初めて学習会および交流会を経験しました。

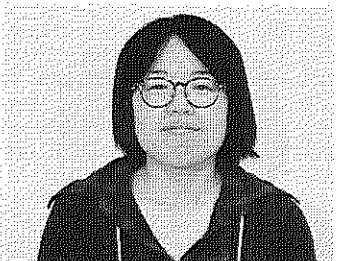
第一部では、冒頭、染中央執行委員長から歓迎の挨拶を受け、高木青年部長から「労働組合の役割と存在意義【青年部運動】について」を題して、労働組合の歴史や権利、必要性について、分かりやすく丁寧に講演を行いました。次に、自治労共済東京支部濃野様から、「自治労と共済活動」

長元の良い因縁がらばらうで終了しましたが、全員が清掃職場で活躍する決意と組合活動への意欲を感じる集会となりました。

(渡辺 歩)



**新書記紹介**



前田落子さん

**山形県国保労組出身の労働運動の経験が豊富な方**

新たな書記として前田落子さんがこの4月から本部事務局に加わりました。前田さんは、山形県国保労組の女性部書記長として、賃金・労働条件の交渉を当局とされていたとても経験豊富な方です。

前田さんからは「この度、東京清掃労働組合で書記として働かせていただくことになりました。仲間を思い、それを行動に移し、形として次世代へと想いを紡いでいく。それが労働組合であり、また労働組合活動へ携わる機会をいただけたことに感謝しております。組合員の皆様のバックアップをし、よりよい労働組合活動へとつながるように、精一杯頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。」

今後の活躍に期待していきましょう。

(田口 康乗)



▼某雑誌がこの程、高卒大学卒業生を対象とした「第4回就職した企業・業種ランキング」調査結果を発表した。それによると、1位はなんと「国家公務員」2位は「地方公務員」3位「日本航空(JAL)」と続くそうだ。

▼4位以下を見ても、安定性の高い企業・業種が人気あるようだが、就職先を設定するにあたっての点は、1位「給与額」(50.8%) 2位は「雇用形態」(20.0%) だという。

▼現在、働いている側からしてみると嬉しい限りであるが、賃金や労働条件に至ってはまだまだ改善の余地が多い。将来にむけて若い世代が夢と希望を持ち、魅力ある「就職先」にしていくためにも、我々、労働組合がさらなる賃金・労働条件の向上にむけて闘っていかねばならないと感じた。

(中央区担当中央執行委員 藤波 武志)